

わちエダより

題字 吉田蒼月

Vol.47

令和2年(2020年)
6月発行



院長就任のご挨拶

社会医療法人 財団新和会 八千代病院

院長 小林一郎

診療情報

救急センター

24時間365日、地域の安心を守るために。

薬剤部からのお知らせ

薬剤師がアドバイス!
お薬手帳活用術

院長就任のご挨拶

社会医療法人 財団新和会 八千代病院

院長 小林一郎



プロフィール

外科医。2000年八千代病院 救急科部長に就任。
救急センター長、副院長を歴任し、2020年4月院長に就任。
長年、当院の救急医療を牽引するとともに、安城市の災害医療
北部地区コーディネーターを務め、地域の救急・災害医療分野で
中心的な役割を果たしてきた。

これまで弥政晋輔先生が財団新和会理事長と
八千代病院の院長を兼務されていましたが、
このたび理事長に専念されることとなり、
4月1日をもって私が院長を拝命いたしました。
地域の皆様へのご挨拶を兼ね、当院のこれまでの
歩みを振り返りながら、地域と当院の
これからについてお話したいと思います。

地域に必要な医療を提供する

八千代病院の歴史は長く、1900年に田中純平氏と
いう一人の篤志家^{とくしか}が「地域に病院がないため、住民が
医療を受けたくても受けられない」と、私財を投じて田
中病院を開院したのが始まりです。以来、時代の変遷に
より母体を変えながらも、地域に根差し、その時代時代
に求められる医療の充実に努めてきました。

たとえば高度経済成長期には車社会が到来し、この
地域でも交通事故が多発しました。当時の八千代病院
は国道一号線沿いにあり、地域で数少ない救急病院と
して救急および外科診療に力を入れていました。

私が救急科部長に就任した2000年には、交通外傷
は減少していたものの、当地は中部産業の要であり人
口増加が著しく、救急需要はなお拡大する一方でした。
当時の救急搬送は年間約1,000件。そのような中で
スタッフは「地域にとって救急は医療の根幹を成す
もの。救急患者は断らない」という強い使命感をもち、
献身的に地域の救急医療を支えていました。

二次救急病院

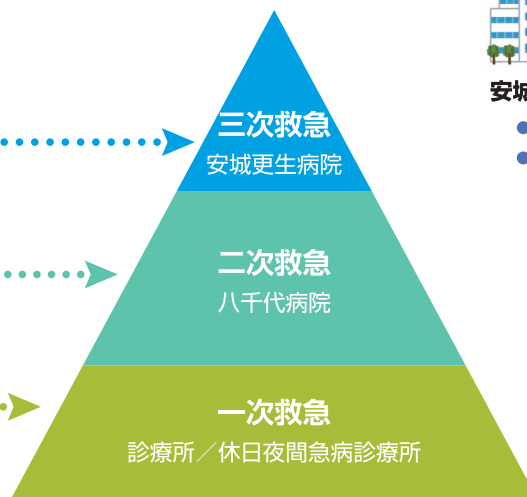
八千代病院は二次救急病院として
一次、三次医療機関と連携し、
地域の救急医療を支えています。

二次救急まででは対応できない
重篤疾患や多発外傷に対応

入院や手術を要する重症患者に対応

入院や手術を伴わない、
比較的症状の軽い患者に対応

安城市の医療提供体制



安城更生病院

- 救命救急センター
- 総合周産期母子医療センター



八千代病院



少子高齢社会に備え、 スーパーケアミックス体制を構築

少子化高齢化が進み、社会構造や疾病構造が大きく変貌する21世紀を前に、当院は地域の未来を見据えて病院改革に着手しました。そして2005年、地域の皆様にご支援いただき、老朽化、狭隘化していた国道沿いの旧病院から現在地に新築移転を果たします。

新病院には独立した救急センターを整備し、最新鋭のCTやMRIを導入して、これまで診療の柱としていた救急、急性期の機能強化を図りました。加えて、地域に不足していた回復期病棟、療養病棟を新たに開設し、救急、急性期からリハビリ、療養、さらには在宅支援までを自院で完結しうる体制を整えました。

しかし医療の高度化、専門家が進み、医療介護需要の増大が続く現在では、地域医療はひとつの病院だけで成り立つものではありません。異なる機能を持つ医療機関が互いに連携し、最適化を図ることではじめて、地域全体に質、量、機能ともに過不足のない医療介護が提供できるようになります。

そこで近隣病院と診療所、介護福祉施設、行政と顔の見える関係を築き、「地域の患者さんは、この地域で責任をもって診る」という想いを共有して、地域完結型の医療介護提供体制を構築していきました。

こうして地域関係機関の皆様とともに創り上げた包括的な医療介護提供体制が**スーパーケアミックス**です。

これからの八千代病院に求められること

人口減少が進む日本全国の流れとは異なり、安城市では人口増加が続いており、医療圏における医療介護需要は2035年から40年にピークに達すると予測されています。その需要にしっかり応えていくために、当院は下記に積極的に取り組んでいきます。

◎今後増加が予測される疾患の診療体制の充実

がん、認知症、心疾患、脊椎脊髄疾患、糖尿病など

◎地域に不足する診療機能への対応

不妊症、アレルギー疾患、スポーツ外傷・障害など

◎在宅支援の拡充

在宅医療、通所・訪問サービス、老健など

◎医療介護人材の確保と育成、職場環境改善

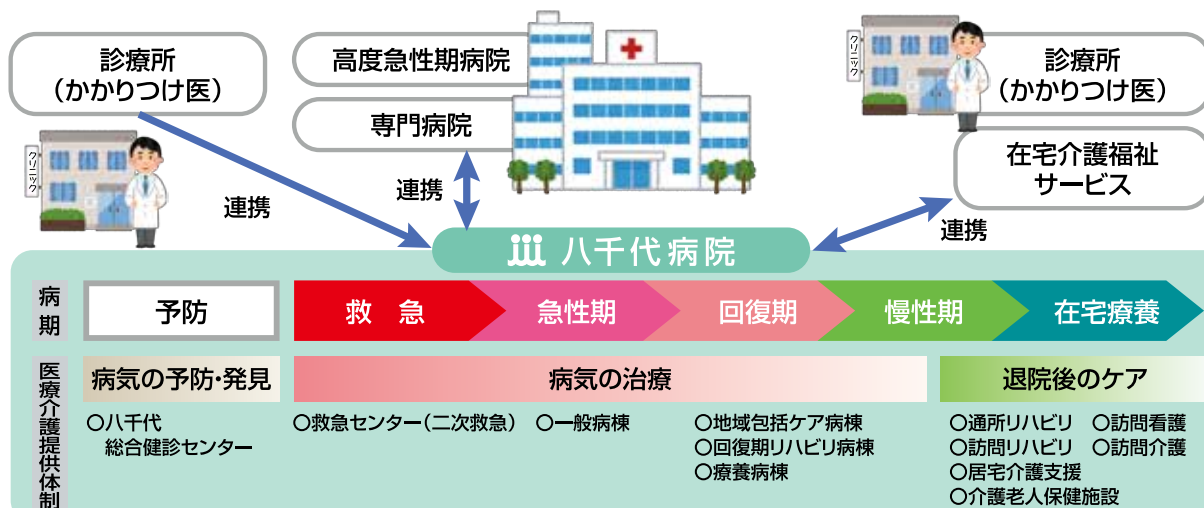
地域で高度な医療を安定して提供していくために、人材の確保・育成も重要な課題です。

前身の田中病院から数え120年の歴史を誇る八千代病院。長い歴史を積み重ねてこられたのも、諸先輩が地域医療に真摯に取り組み、地域の皆様と信頼関係を築いてきたからにほかなりません。伝統は変革の連続だといいます。「地域のために必要な医療を提供する」という創業の精神を継承しつつ、柔軟な発想で時代に即した変革を続けていきたいと思えます。

地域の皆様との絆をより強固なものとするために、職員一同、努力してまいります。今後とも当院の活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

スーパーケアミックス

異なる機能を持つ地域の医療機関、介護福祉施設が連携し、機能を補いあって、患者さんの視点で切れ目のない医療介護を展開しています。



24時間365日、 地域の安心を守るために。

年間約3,300台の救急車を受け入れ、地域の救急医療の一翼を担う八千代病院救急センター。
地域の皆様の緊急事態に対して24時間365日、最善の医療を提供できるよう体制を整えています。
ここでは、当センターの機能についてご紹介します。

二次救急センターとして幅広い救急疾患に対応

八千代病院救急センターは、人口70万人を擁する西三河南部西医療圏※1で二次救急医療を担っています。診療時間外のウォークイン※2を含めた救急外来患者数は年間1万3,800人、そのうち救急搬送患者は3,300人に上り、医療圏のほか隣接する岡崎市、豊田市からの救急要請にも対応しています。

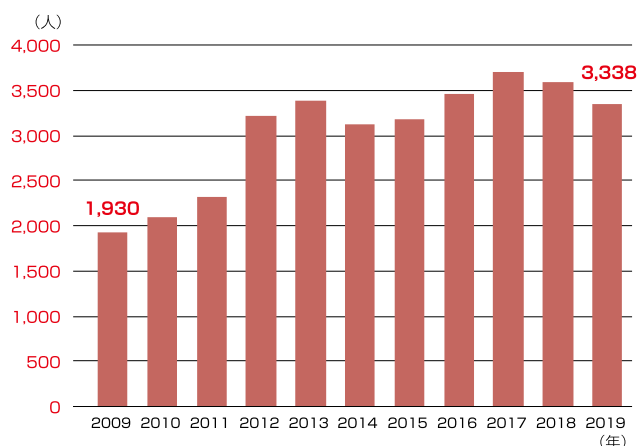
当センターの役割は、緊急入院・緊急処置や手術が必要な患者さんを見極め、迅速に治療を行うことにあります。センターでは通常、各科担当医および研修医が交代で初期診療にあたっていますが、専門性の高い緊急処置が必要な場合は、直ちに専門各科の医師や関連部署と連携して治療を展開します。

※1：安城、刈谷、高浜、知立、西尾、碧南の6市で構成される医療圏

※2：救急搬送以外に自力で来院する方

救急搬送患者数の推移

地域の人口増加、高齢化などを背景に、救急搬送患者数は10年で1.7倍に増加しています。



主な救急疾患

センターで診療する疾患は外傷から内因性疾患まで多岐にわたりますが、近年は内因性疾患の割合が増えています。

内因性疾患

- 脳卒中
- 狭心症、不整脈、心不全
- 肺炎
- 消化管出血、虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎



外因性疾患

- 交通外傷
- 打撲、捻挫、骨折



患者さんのベネフィットを最大化するために、
より質の高い救急医療を追求しています。

1 質向上のために

先進機器を導入し、より迅速かつ的確な診断・治療を実現

近年、内因性疾患の増加によりCTやMRI、血管撮影など画像診断の重要性は増しており、治療方針の決定に大きな役割を果たしています。加えて、医療技術の進歩により、内視鏡治療やIVR(画像下治療)など、患者さんの身体により負担の少ない低侵襲治療へのニーズも高まっています。

そこで当院では、検査・治療の質を一層向上させるため、画像診断機器の拡充を図っています。また、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師ら専門職を24時間配置し、診療時間外、深夜帯においてもセンターからの緊急要請に高い技術で応えられるよう、院内の体制を整えています。



PICK
UP !

救急疾患の初期検査に有用な「一般X線撮影装置」を刷新

胸部をはじめ腹部、全身の骨など幅広いレントゲン撮影に対応する一般X線撮影装置は、CTやMRIに比べて撮影時間が短く、全体像を素早く把握できるため、救急疾患の初期検査に有用です。

このたび新たに導入された一般X線撮影装置は、FPD搭載の最新鋭モデルで、患者さんに右記のメリットをもたらします。



- 最新の画像処理技術により、ノイズの少ない鮮明な画像が得られるため、**より正確な診断**が可能です。
- 従来の装置に比べてX線の感度が高いため、**医療被曝を軽減**できます。
- 撮影後、画像表示までの時間が大幅に短縮されるため、**スピーディな検査・診断**に寄与します。
- 新規導入のX線撮影装置にはポータブルタイプも含まれており、手術室や集中治療室に持ち込んでの撮影が可能です。その場で検査や画像の確認ができるため、患者さんの**身体的負担を軽減**でき、次の治療への移行もスムーズです。

FPDとはフラットパネルディテクタの略で、体を透過したX線をFPDで受け取り、デジタル信号に変換することによってレントゲン写真を得る装置です。

安城市では地域で高度な救急医療を安定して確保するため、医療機関の高度医療機器導入に際して補助を行っています。この一般X線撮影装置は、安城市より補助金の交付を受けて導入されました。

知識とスキルを磨き、チーム医療を高度に洗練

救急医療はチームで行う切れ目のない連携医療です。ここでいうチームとは、院内の医療チームにとどまりません。救急対応は病院に到着する前から始まっており、脳卒中や心不全など、発症時の初期対応や病院到着までの時間が患者さんの生命と後遺症の発生を

左右することもしばしばです。

そのため、院内での救急症例検討に力を入れるとともに、初期対応を担う救急隊員の病院実習を積極的に受け入れ、チーム全体の知識とスキルの向上に努めています。

救急症例検討会



院内では、救急センターを支える若手医師を中心に救急の症例検討を頻繁に行っています。また、多職種参加による救急ICU委員会を組織し、救急対応における改善点を見出し、多職種で情報を共有して、今後の診療に役立てています。

一方地域でも、他の医療機関や消防と合同の協議会を定期的で開催しており、救急救命率の向上、施設間の連携強化を図っています。

救急救命士・救急隊員の病院実習



平成26年より救急救命士の処置範囲が拡大され、医師の指示下での除細動、気管挿管などが可能となりました。現場の救急救命士と医師がホットラインで連絡を取りながら救命活動にあたるケースもあり、センターでは消防局と連携して隊員らの実習を受け入れています。実習はスキルアップとともにコミュニケーションの深化につながり、円滑な救急活動に大きな効果を生んでいます。

八千代救急センターは皆さんを突然襲う病気やケガに対し、最善の医療を提供できるよう絶えず努力しています。

救急センターを受診される方へ

院内トリアージにご協力ください。

救急センターおよび救急外来では、緊急処置を要する傷病のサインを見逃さないよう、看護師が来院した患者さんに対するトリアージ(緊急度の評価)を行っています。一般の外来診療と異なり、救急センターでは緊急度の高い患者さんの治療が優先されます。トリアージの結果により診察の順番が前後することがあります。また、重症の患者さんの治療中には待ち時間が長くなる場合がありますが、ご理解ください。



薬剤師がアドバイス！ お薬手帳活用術 ～お薬を安全に、効果的に使用していただくために～



お薬手帳を
見せて
ください。

近年、複数の医療機関や薬局にかかる高齢者が増え、医薬品の多剤服用から安全性の問題が生じやすくなっています。薬は飲み合わせによっては効果が弱まったり、副作用が出る場合があります。こうしたリスクを未然に防ぎ、患者さんに薬をより安全に、より効果的に使用していただくために、お薬手帳が役立ちます。

医師や薬剤師は手帳の記録からさまざまな情報を読み取り、総合的に判断して、個々の患者さんに適した処方・調剤をしています。お薬手帳は患者さん自身の「薬の履歴書」であるとともに、患者さんに関わる多くの医師や薬剤師が情報を共有するための「連絡帳」でもあります。受診時には必ず持参しましょう。

お薬手帳の記録内容

- 薬の名称
- 処方量
- 処方日数(使用期間)
- 使用方法と注意事項



医師・薬剤師の主なチェックポイント

- どのような薬をどのくらいの期間使用しているか。
- 同じ成分の薬が重なっていないか。
- 飲み合わせの悪い薬はないか。
- 他院で、どのような疾患の治療を受けているか。

お薬手帳 ワンランクアップ活用術

1. お薬手帳は1冊にまとめましょう。

病院や診療科、薬局別に手帳を分けると情報が分散し、医師や薬剤師に正確な情報が伝わらなくなってしまいます。なお、手帳が切り替わった時は、古い手帳もしばらくお持ちください。

2. いつも同じ薬でも、シールは毎回貼りましょう。

薬の使用期間の情報も重要です。シールの日付が古いままだと、他の医療機関で現在は服用していないと判断され、薬を重複して処方されてしまう可能性もあります。

3. アレルギーや副作用歴、既往歴も記入しましょう。

リスクのある薬剤を回避でき、安全な処方につながります。

4. メモ欄を活用しましょう。

薬について分からないこと、気になったことを普段からメモしておく、受診時にスムーズに質問できます。

5. 救急受診や緊急入院時、災害時にも携行しましょう。

お薬手帳からアレルギーや病歴、服用中の薬などの情報を医療スタッフがすぐに把握でき、迅速に処置を進められます。

あなた自身のことをご記入ください
(薬を処方されるときや緊急時に役立ちます)

フリガナ	氏名	電話
住所		
生年月日	年 月 日	血液型 型
アレルギー歴・副作用歴(有・無)		
食 べ 物	薬	
※主な既往歴		
☐ アレルギー性疾患	☐ 肝疾患	☐ 腎疾患
☐ 心疾患	☐ 消化器疾患	☐ 糖尿病
☐ その他()		
※嗜好品(成人の方のみご記入ください)		
・お酒は	飲まない	飲む どのくらい
・たばこは	吸わない	吸う 1日 本くらい
※体質であてはまる項目に☑をつけてください		
☐ 風邪をひきやすい	☐ 疲れやすい	☐ 便秘しやすい
☐ 下痢しやすい	☐ 不眠症	☐ リンパ腺がはれやすい
☐ 中耳炎にかかりやすい	☐ 胃が弱い	
☐ その他()		

日常の服薬管理から
いざという時まで
お薬手帳はあなたの
安全を守ります。

お薬相談窓口のご案内

薬剤部では、患者さんからの薬相談を受け付けています。
お薬について気になることがありましたら、遠慮なくご相談ください。

場 所	本館1階 お薬カウンター隣 相談室
受付時間	月曜日～金曜日／8:30～16:30 第2・4・5土曜日／8:30～12:00



当院に新たに着任した医師をご紹介します。



呼吸器内科
峯澤 智之（みねざわ ともゆき）
令和2年4月1日着任

初めまして。4月から八千代病院へ赴任いたしました峯澤智之と申します。前任地の藤田医科大学病院では呼吸器内科・アレルギー科を専門に従事してまいりました。患者さんとの信頼関係を重視した診療に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【所属学会・資格】

日本内科学会（認定医／総合内科専門医）
日本呼吸器学会（呼吸器専門医）
日本アレルギー学会（アレルギー学会専門医）
日本呼吸器内視鏡学会（気管支鏡専門医）



小児科
小原 尚美（おはら なおみ）
令和2年4月1日着任

4月より小児科で勤務させていただくことになりました小原尚美と申します。出身は岡山県です。6年前より愛知県でお世話になっています。地域の皆様に貢献できるよう、日々精進していきたいと思います。診察の際には患者さんご家族の気持ちに寄り添うことを心がけたいと思います。

【所属学会・資格】

日本小児科学会（専門医） 日本小児アレルギー学会
日本アレルギー学会 日本小児感染症学会
NCPR「専門」コース インストラクター

トピックス

Topics

当院へのご支援に対するお礼

各種報道でも伝えられました通り、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、医療機関における医療物資の不足が深刻化しました。そうした中、企業・団体・市民の皆様から当院にマスクやフェイスシールド、防護服等を多数ご寄贈いただきました。

ご寄贈いただきました医療物資は、当院での医療活動に有効に活用させていただきます。改めて皆様の温かいご支援に心よりお礼申し上げます。

ご寄贈いただいた皆様（五十音順、敬称略）

- 安城市医師会
- アンジョウハーツ、安城南ライオンズクラブ
- 安城ロータリークラブ
- オリックス自動車株式会社 名古屋支店
- 絵画造形教室たけのこ
- 株式会社玉井設計
- 株式会社ブローニュ
- ホテルグランドティアラ安城
- 株式会社マキタ
- 山崎製パン株式会社 安城工場
- 株式会社ワンダーサービス



アンジョウハーツ様、安城南ライオンズクラブ様よりフェイスシールドの寄贈を受ける小林一郎院長

病院理念／ 最善の医療を提供する

基本方針／ 1) 患者本位の医療
2) 地域中心の医療
3) 安全先進の医療

目 標／ 私たちは、クオリティホスピタルを目指します。

※クオリティホスピタルとは、志の高い病院・質の高い病院・満足度の高い病院です。

モットー／ 親切 親和 信念